

第5学年1組 算数科学習指導案

場所 5年1組教室

1 単元 小数のわり算 (本時8 / 14)

2 本時の目標と授業後になりたい「みちガエル」の姿

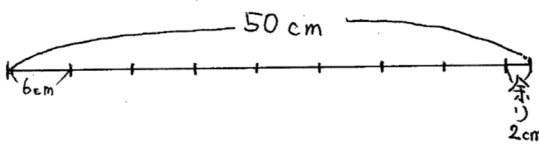


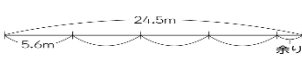
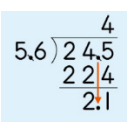
< 目標 > 余りのあるわり算で、余りの大きさを正しく判断し、筆算で商と余りを求めることができる。(思考力・判断力・表現力等)

< みちガエル > 線分図や余りのあるわり算のたしかめ算や余りの正解から、余りが小数になる場合の筆算の仕方について気付き、友達に伝えることができる姿。

3 発言しようとする意識を高めるための取り組みについて

一人一人が自分の意見を表現できるように、グループの話し合いの場で、自分のフェイスマグネットを使用する。

4 展開

段階	子供の活動	教師支援 (㊟主体的に学び続ける手立て ㊞個に応じた指導)
つかむ (7)	<p>1 これまでの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立式 $50 \div 6 = 8$ 筆算 答え 8 本 余り 2 cm ・確かめ算 $6 \times 8 + 2 = 50$ ・線分図  <p>2 問題意識をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小数÷小数の式になりそうだ。 ・余りはどうなるのかな。  <p>3 学習課題を設定する。</p>	<p>・わり算の立式の方法や余りのあるわり算の確かめ算の方法について、想起できるように復習問題を提示する。</p> <p>問題1 50 cmのリボンを6 cmずつに切る。何本できて何cm余りますか。</p> <p>・苦手な児童も後の思考する学習で活かせるように、立式、筆算、確かめ算、線分図などを復習しておく。</p> <p>・これまでとの違いを明確にし、問題意識を高めるために、本時で取り組む問題を提示する。</p> <p>問題2 24.5 cmのリボンを5.6 cmずつに切る。何本できて何cm余りますか。</p> <p>㊟ 「どんな課題にしたいですか。」</p>
見通す (3)	<p>余りのある小数のわり算をできるようになりたい。</p> <p>4 になりたい「みちガエル」姿と見通しをもつ。</p> <p> <u>グループで考えるときに、計算の仕方を伝えることができる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通し <p>①自分で考える ②グループで話し合う</p>	<p>㊟ 「何ができたらみちガエルかな。」</p> <p>・見通しを確認する。</p>
深める (31)	<p>5 ひとりで「まち・かんガエル」タイム(2分)</p> <p>(1) 問題2について、1人で考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・式は $24.5 \div 5.6$ になるね。 ・筆算で計算したよ。 ・余りは2.1 cmでいいのかな。 <p>6 みんなで「まち・かんガエル」タイム</p> <p>(1) グループで、問題を解いて、余りがどれだけになるのか考えて、おしぼりにまとめる。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・答え 4 余り 2.1 cm ①確かめ算 ②線分図 ③筆算 ・実物のリボンを切りながら、考える。 <p>(2) グループでまとめたことを、発表する。(6分)</p> <p>①  ③ </p> <p>② <u>わる数×商+余り=わられる数</u></p> <p>$5.6 \times 4 + 2.1 = 24.5$</p>	<p>・「今からまち・かんガエルタイムです。」</p> <p>・立式や余りの求め方で困っている児童には、始めの問題1の復習問題を活用するとよいことを伝える。</p> <p>・「何本できる」とたずねられているので、商は一の位まで求めることを確認する。</p> <p>・実物を使って考えられるようにグループに1本リボンを配付する。</p> <p>・<u>自分も同じように考えた意見には、ホワイトボードに、自分のフェイスマグネットを貼るように伝える。</u></p> <p>・グループ内の話し合いにおいて、自分の意見をきちんと言える児童を称賛する。</p> <p>・実物のリボンを使い、正解の確認をする。</p>

振り返る
(4)

7 $18 \div 3.2$ を筆算で、各自で計算する。(5分)
・余りの小数点の位置は移動させる前の位置なんだ。
・商の小数点の位置と余りの小数点の位置は違う。

8 筆算での余りの小数点の位置について、グループで考える。(5分)
(1) グループで考えたことを基に、発表する。(3分)
・どちらも、移動する前の小数点の位置と同じだね。

9 <ふりかえりタイム>
(1) 「みちがエル」になれたかを自己評価する。
(2) 本時で学んだことを書く。
・小数のわり算で余りがあるときは、小数点の位置に気をつけて、計算しないといけない。
・間違いに気付けるように、小数のわり算で余りがあるときは、必ず確かめ算をする。
(3) 学習に取り組む態度の自己評価をする。

・練習問題を提示して、1人で取り組ませる。
問題 3 $18 \div 3.2$ について、商を一の位まで求め、余りを書きましょう。また、答えを確かめ算しましょう。

<授業の山場>

余りの小数点の位置は、筆算でどう考えたらいいのだろうか。
→問題 2 と 3 の 2 つの問題の答えを基に考えさせる。

<まとめ>

・筆算の余りの小数点の位置は、わられる数もとの小数点と同じ位置です。

・確かめ算が、間違いを防ぐのに役立つことを確認する。

㊦ うまく書けない児童には、まとめの言葉を参考にして、書くとよいことを助言する。

㊧ 机間指導により、答えの小数点の位置と余りの小数点の位置の違いを理解している意見を称賛する。